

ジュゴン Vol.57

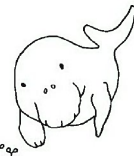
ちゃんぷるニュース



2011. 7. 12

～パシフィック・ジュゴン年～

CONTENTS



- 2/3 絵空事の「2+2」合意
- 本澄寺ジュゴンライブと講演会の報告
- 4/5 特集・じゅごんの里ツアー
- 6/7 生物多様性パレード
- 10周年写真展
- コラム・「勾玉と巴紋の旅」
- 8 フィリピン訪問記③、お知らせ

昨年稲嶺新市長が誕生し、「辺野古の海にも陸にも新しい基地は作らせない」と基地に依存しないまちづくりをスタートさせた。このことは私たちにとって大きな励みになった。

今年のじゅごんの里ツアーは、私たちが目指してきた「基地ではなくジュゴンの保護区を」にむけた貴重な一歩を踏み出したといえる。

じゅごんの里ツアー

保護区へ貴重な第一歩

第一に、名護市親川副市長をはじめ環境対策課・商工観光課・企画調整課の担当職員の方々とジュゴン保護や町おこしなど意見交換できたことである。特に環境対策課環境政策係が今年度から新設され、種の保存法や環境基本条例などの情報収集をはじめているとのことだった。

第二に、町おこしの実践として「わんさか大浦パーク」の活用に踏み出したことである。地元の若者がカヌー体験の講師となり、わんさか大浦パークを拠点に町おこしを進めていく緒についた。

最後に印象に残ったことをひとつ。最終日、やんばるにある喫茶「茶々」でコーヒーを飲みながらお店の方とゆんたくをした。「大宜味村には基地はないさあ～。だから基地収入はない。金がなくても豊かな生活はできる。それが誇りだ」の一言に感銘を受けた。

今日本では、米軍基地や原発を受け入れる自治体に巨額の「交付金」などが支給される。「金」に惑わされるのではなく、自然と共生し人間らしく生きていくことをじゅごんの里ツアーを通じて改めて感じた。
(首都圏 三村昭彦)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



じゅごんの里ツアー初日、意見交流をしてくださった名護市の親川副市長と職員の皆さん（5面）



ツアー最終日のヤンバル散策。雨の中でも様々な森のいきものたちに出会いました（4・5面）



「絵空事（えそらごと）の「2+2」合意」

6月21日ワシントンで日米安保協議委員会（2+2）が4年ぶりに開かれました。北澤防衛相、松本外相と米国務長官、国防長官の出席で「できる限り早い時期に完了させる」と、従来の2014年移設期限を撤回して、名護市の辺野古崎にV字形の1800メートルの滑走路を建設することで合意しました。この合意は仲井真沖縄県知事すら「絵空事、実現不可能」と批判しているように、沖縄県民は認めるはずありません。稲嶺名護市長は「地元の理解を得ていない日米合意はまったく意味がない」と厳しく指摘しています。

＜米国取極危機がその背景＞

なぜ「2+2」の合意を急いだのでしょうか。6月末に退任するゲーツ国防長官が「1年で具体的な進展を」と日本政府に突き付けたことでも明らかのように、米議会から軍事費削減要求が強まってきているからです。レビン上院軍事委員長らは「辺野古移設は幻想」と嘉手納統合案を提唱することで、「（当面は）辺野古とセットのグアム移

設1.5億ドルを来年度予算から削減する」としています。次期バネッタ国防長官も辺野古とグアムをセットで移設する計画を見直す意向を示しています。

＜オスプレイ配備を強引に宣言＞

米海兵隊は、来年後半に普天間基地にMV22オスプレイを配備するため



に、伊江島補助飛行場で陸上空母離着陸訓練（FCLP）を実施することを明らかにしました。

「2+2」の前におスプレイ配備や伊江島での離着陸訓練を発表したことは、沖縄県民に「普天間の固定化か辺野古移設か」と選択を迫る恫喝そのものです。世界一危険な普天間飛行場に、オスプレイを配備すること自体認められませんが、さらに空母を使う実戦を想定した練習維持訓練が恒常化することは、騒音被害と危険性が拡大することになります。オスプレイ配備反対、老朽化している普天間基地の即時閉鎖の広範な運動を取り組むことが求められています。（事務局 蛭川義章）



6.11脱原発世界同日アクションin大阪

SDCCCスタッフも参加して、ジュゴン保護署名を集めました。



基地も原発も
いらないよね



脱原発アクションには、子どもや若い人がたくさん集まります。子どもを連れてお母さんたちの参加も目立ちます。みんなのパワーで、基地も原発もない世界を作っていきましょう。





～6/5本澄寺ジュゴンライブと講演会の報告～

「沖縄辺野古にジュゴン保護区を／福島原発震災、自然エネルギーに転換を」を目指す「海勢頭豊 & 月桃の花歌舞団コンサート」は講演ゲストに東恩納琢磨さん・富田貴史さんを迎えて行いました。



東恩納琢磨さん



富田貴史さん

戦争も基地も知らない観光旅行者にも、辺野古に夢の「ジュゴンウォッチングツアー」を現実のものにすれば、IUCN（世界自然保護連合）が既に三度の保護勧告を出した沖縄のジュゴンの、誰もが保護区に賛成するだろう。想いもかけず現実となった福島原発震災に、自然エネルギーへの転換が実現可能なことを示せば、じわじわ命を奪う原発を、誰も選びはしないだろう。名護市市議会議員二期目にいたる地元選挙戦のエピソードや、米国連邦裁判所でのジュゴン保護のやりとり等、今日に至る東恩納さん



沖縄辺野古にジュゴン保護区を!

の語り、150名の聴衆が聞き入りました。

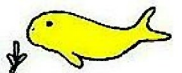
生物多様性の活動で一緒の富田さんは「あとは一人ひとりの決意だけ」と語り、最後はいつもの海勢頭トリオへのアンコールで盛り上げました。

(本澄寺住職 三好龍孝)

ライブ・講演会の前に本澄寺境内では、音楽バンドのアトラクション・模擬店でにぎわいました。SDCCもブースを出して、辺野古フェンスに結びつけるリボンなどを集めました。三好住職も「龍宮神ジュゴンの神」と書いてニコリ☆



「6/19原発即時停止・廃止シンポジウムに参加して」



6月19日に東京機械振興会館で開催された、「原発即時停止・廃止シンポジウム」にブース参加しました。3月11日に発生した東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故によって放射能汚染問題が身近な問題としてとらえられ、多くの方々に参加しました。

福島から参加されたシンポジウムのパネリストである女性が、ジュゴン保護の署名に協力して下さいました。「以前奄美大島にも住んでいたことがある」と南西諸島の話題で盛り上がりました。

シンポジウムでは、矢ヶ崎克馬さん（琉球大学

名誉教授）が、「放射線は生命体にとって百害あって一利なし」「内部被爆の方が深刻な被害」と話されました。また、来年三月までの廃炉を目的に結成された「ヒロアクション福島原発40年」の方は、「本当の情報が共有されていない」「震災後に解雇された。原発問題と労働問題は直結している」と語っていました。

原発問題の収束に全く見通しが付かない中で、SDCCとしてもこのような場に出かけて行って、多くの方に署名を訴え連帯していきたいと思えます。

(首都圏 三村昭彦)

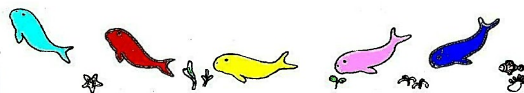
行って来ました☆

第6回じゅごん

6月24日から3日間、第6回ジュゴンの里ツアー「基地ではなくジュゴン保護区」を東京、神奈川、大阪、兵庫からの参加者25名で取り組みました。名護市役所ではジュゴン保護などについての協議を、東海岸ではわんさか大浦パークのカヌー事業で地域おこしをアピールすることが今回の重点でした。

1日目、名護市副市長に表敬訪問、新設された名護市環境対策課などと交流（別稿）したものの、台風5号の影響で2日目のカヌー事業と、辺野古・大浦湾の船遊びは中止。3日目は雨が降りしきる中、大宜味つばきの会のガイドでヤンバルを散策しました。

わんさか大浦パークは基地交付金で建設されましたが、稲嶺名護市長の誕生で防衛省は運営資金をストップ。会館職員をバックアップするため、大浦Iのマングロブをカヌーで体験するイベントを東恩納琢磨さんが積極的に動きました。名護市、観光協会、カヌー協会などが後援しましたが、残念ながら台風で中止になりました。今後とも地域おこしのために協力したいと思っています。3日目のヤンバル散策では、椿の木やヤンバルの鳥、巻き貝、マングースの捕獲器の発見など貴重な体験をし、喫茶「Cafe 茶々」（当日がオープン）で交流ができました。大宜味つばきの会の皆さん有難うございました。



雨の合間を縫って辺野古の浜へ。

シュワブのフェンスは、強固なものに変わっていました。



いのちを守る会の事務所でお話を聞きました。
スタッフからバナーやピースリボンを贈呈



雨の中、自然豊かな大宜味の森を散策しました。左は幹が6本に別れたスダジイの木。この中に入ると長生きする、と言われています。

100歳まで生きそう！なスタッフ。

森の妖精?!

大宜味つばきの会メンバーの、「Cafe 茶々」で昼食。

とてもステキなお店です。

コーヒーを飲みながら、大宜味の森の植生や、生きものたちのお話をお聞きました。



わんさか大浦パーク



<案内>

わんさか大浦パーク：名護市二見以北、大浦高度ってすぐ
管理事務所 TEL 0980-51-9446
「cafe 茶々」：大宜味村大宜味 888
TEL 0980-44-3416

の里ツアー



深まった名護市との交流



名護市職員の方々と記念撮影

名護市議会開会中の24日、親川副市長をはじめ環境対策課、商工観光課、企画調整課と、ジュゴン保護や町おこしなどについて意見交換しました。

冒頭、司会からツアーの説明と参加者の紹介をしました。海勢頭豊代表からは、3月市議会で採択された陳情「沖縄ジュゴンを種の保存法に指定することを環境省に要請する」の履行と、2月に稲嶺市長に要請した「名護市における野生生物保護に関する条例」の制定を求めました。副市長からは「(12月SDCCに)約束した自然保護の担当課を設置した。組織的な対応を進めるためにも、今後も意見交換をお願いしたい」と歓迎の言葉がありました。参加した

「平和な村をつくる市民の会」やSDCCから副市長や各担当課に色紙やジュゴングッズなど激励物を贈呈。

つづいて、各担当課から仕事について紹介がありました。環境対策課はジュゴンを種の保存法の種指定することについて環境省那覇事務所と意見交換した経過や、環境基本条例の策定に向けて情報収集している説明がありました。商工観光課、企画調整課は地域資源を活用するエコツ

ツアーの検討や廃校した小学校の跡地利用、わんさか大浦パークの支援を明らかにしました。参加したサンゴ研究者・目崎茂和さんからは「人の町からジュゴンの町へ」など自慢できる町づくりをテーマにエコツアーガイドづくりなどのアドバイスがありました。ジュゴンの保護区に消極的な環境省の対応について、正阿弥崇子さんからは「フィリピンのクリティカル・ハビタット」の取り組みの紹介がありました。市議会の委員会を終えて参加した東恩納琢磨市議からは「今年10月5日の観光協会50周年記念事業を、ジュゴンの日として取り組みたい」との決意がありました。最後に、記念写真を撮って1時間の交流を終えました。

(事務局 蛭川義章)

参加者からの声



クンジャケマイマイ



サンタンカ



嘉数高台から普天間基地をのぞむ



佐喜真美術館

神奈川の米軍基地のある街から、初めて参加させていただきました。以前からブログの「ジュゴン掲示板」は見えていたので、親しみを感じていて、さらにツイッターで偶然見かけたつぶやきが、参加募集でした。すぐに参加希望のメールをして、新宿の写真展にもお邪魔しました。沖縄は雨だったとはいえ、本土では味わえない激しい雨と風は、楽しい思い出になりました。ちゅら海水族館と佐喜真美術館に行かれたのも、とてもうれしかったです。6回目の沖縄ですが、ジュゴンを想う人々の、細やかなやさしさに触れた旅でした。Mさんの運転で走った高速の、前が見えない土砂降りも懐かしいです。ありがとうございました。

(ブーゲンビリア)

「沖縄は自然と不自然がいっぱいの島」

じゅごんツアー参加も沖縄上陸も初めてでした。はじめに私を迎えたのは軍の存在感。那覇空港の自衛隊機、居座る普天間基地、レンタカー移動中に目にする米軍キャンプ地。いずれも大きい。一方で、宿舎ややんばるの森では多くのめずらしい虫や植物を見ることができました。そして何より地元の人々と語り合えたことが収穫です。

(関西から参加 野本耕志)

報告

5/22(日)生物多様性の日

“いきものスキスキごった煮パレード on みどうすじ”に参加!

3.11 東北大震災は実行委員のメンバーを揺さぶりました。きっと日本の世界の多くの人を揺さぶったでしょう。「原発事故が起こってしまった…」「放射能汚染これからどうなるのか…」「自分に何ができるのだろう…」大きなショックでした。3回目の生物多様性パレードをやることの意味を再確認することになりました。脱原発のデモが続く中、今だから脱原発のパレードがいいんじゃない?という声もありました。けれど“生物多様性って何?”今だからこそ、すべてのいのちの大切さを伝えたい!安全な空気、水、食べ物があってこそ私たちは生きられる。それは豊かな森や海から与えられる。私たちはその恵みで生かされている。みんなの気持ちが決まった。すべてのいのちのために、素晴らしい世界を創るためにパレードをしよう!ジュゴンの棲む美しい辺野古の海を守ることは、すべてのいのちを守ることに繋がっている。精一杯アピールしよう。当日、朝の大雨が上がリ、御堂筋を歩きはじめると陽が射

してきました。お天気も味方してくれている。見上げたら空が美しかった。人数は50人ほどで少なかったけれど、沿道の注目を浴び、多様性を感じる楽しいパレードでした。来年も生物多様性の日にパレードしましょう♪みんな集まれ〜。
(関西 池側恵美子)



御堂筋を元気にパレード



設立 10 周年記念イベント

沖縄★辺野古・大浦湾写真展&交流会を開催

5月21日～22日、新宿中央公園内にあるエコギャラリー新宿で写真展&交流会をしました。牧志治さんの辺野古・大浦湾のすばらしい写真と、共に活動してきた仲間達や沖縄に関わる著名な方々のジュゴンメッセーシコーナー

が今回のお勧め展示でした。綺麗な海の中の生き物の写真に、来場者は見入っていました。

沖縄から来ていただいた東恩納琢磨さん(じゅごんの里代表、名護市議会議員)との交流会では「基地に依存しない町づくりとして、この3年で大浦の「わんさかパーク」を観光拠点として自立運営できるまでにする!」と、成功させる必要性を強調した、名護市の新たな夢膨らむ話に盛り上がりました。

会場が都庁裏の公園内ということで来場者が2日間で70人ほどと少なかったのが残念でしたが、ツイッター繋がりの方、ブログやチラシを見た方、アースデイがきっかけの方などが来てくれました。そして新規会員になってくれた方、今年のジュゴンの里ツアーに参加してくださった方もあり、新しい出会いや繋がりができた記念イベントでした。
(首都圏 矢敷克子)





「勾玉と巴紋の旅」～こらむ・コラム～

今年も5月10日から13日にかけて、ソウルを旅した。ついでに勾玉や巴文に関する何らかの資料がないものかと市場を歩いていたら、期待通りにそれは見つかった。韓国の国旗は二巴だし、大韓航空のマークも二巴である。そして鉄道の各駅を示すマークは、よく見かける韓国風の流麗な三巴文である。

ところで、韓国社会にこれほど馴染み親まれ多用されている巴文だが、その理由について教えてくれる人はいないから驚く。

とにかく勾玉や巴文の由来など知らない。だが、韓国人にとって一番大切な何かを秘めた印として、愛用しているようなのである。その心の証となる物をお土産品店で見つけた時は、さすがに嬉しかった。

さて毎年、済州島四・三事件の犠牲者を追悼する慰霊祭に参加しているが、初めて訪ねた2008年4月2日、遺族会主催の慰霊祭の舞台で歌った後で島を案内された。3万人・5万人とも言われる島民が、共産主義者と

みなされ虐殺された四・三事件。1948年4月3日を起点に、1年余にわたって殺されて埋められ、そして海に流されて実相が判明しないこの事件。もとはと言えば、韓国を併合して植民地化した日本が悪いのであるが、その恨みは深し大日本帝国に抵抗し、自由と独立をめざした抗日運動の記念館の前に立った時のことであった。

私はボールの先に翻る旗を見上げて驚いた。何とそれが、赤い三巴の文様の入った旗だったからである。済州道旗であることが後で分かったが、その翌年訪ねた時には、もう三巴旗は無くなり英文子の旗に変わっていた。

遠い昔、新羅の国に伝わったとされる三巴を済州島民が大切にしていた。その歴史が消されたように思ったが、今年の10月には島で行われる龍王神を祀る祭りを取材に行こうと思っている。来年のIUCN 済州島大会に向けて、勾玉と巴文と竜宮神ジュゴンの物語はいよいよ大詰めを迎えそうである。

海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC 共同代表）

～街のジュゴンサポーター～ ラウンジ風居酒屋 **BOX**

今回ご紹介するお店は、天井に大きなジュゴンが泳いでいる「BOX（ボックス）さん」です！ 【新橋駅前ビル1号館 地下1階。JR 新橋駅直結・徒歩1分】何度かHPで載せていますが、SDCCご用達のステキなお店♪

ご自身もダイバーであるママさんのお店には海好きが集まってきます。店内は海の生きものの写真が沢山飾られています。メニューのイラストやコート掛けなどメインキャラクターとなっているのはジュゴン！！これが、可愛い～んです。

なぜジュゴンなのか？それは・・・カメラマン倉沢栄一さんの「絶滅の危機にあるジュゴン」の講演を聞いたママさんか”守らなければ”と、その想いを忘れないようにジュゴンの人形をお店に飾ったそうです。（尾ビレには倉沢さん直筆のサインが書かれています）

SDCCの交流会などにもご協力頂いていた倉沢さんが、惜しくも亡くなられて早1年。BOXでは店内を倉沢



天井にジュゴンが飾られたBOXでポーズ！

作品で埋め尽くした、追悼写真展を5/9～6/3で開催していました。最終日に首都圏のメンバーでお邪魔してきました。店内は倉沢さん縁のお客で満員！倉沢さんの写真に心動かされた人々は席は違えど連帯感に包まれていました。

この日来店されていたカメラマンの中村征夫さんや倉沢さんの息子さんと記念撮影をさせていただきました。今回も素敵な出会いをBOX&倉沢さん、ありがとうございました！！（首都圏 小平裕美）

あみちゃんのフィリピン訪問記 ～その3～



あみことSDCCスタッフの正阿彌崇子は3月2日～8日にフィリピンを訪れ、地域主体のジュゴン保護区であるクリティカルハビタット予定地(ヒナトゥアン市)を視察してきました。

今号では、フィリピンのクリティカルハビタット予定地に浮かぶ3島の島民インタビューから、感じたことを書こうと思います。

最初の島では、漁業組合長と区長さんにお話を聞きました。現在、島の付近ではほとんどジュゴンが見られませんが、昔はジュゴンを買ったことがある島民もいたそうです。また、オスのジュゴンがメスと間違っ、人に抱きつくことがあり、危険な動物というイメージも持っていました。クリティカルハビタットについては、海藻の養殖に影響を与えるのではないかと危惧していました。

2島目では、島長さんに話を聞きました。この島では、満潮時にジュゴンをよく見かけ、身近な存在であるジュゴンを守るクリティカルハビタットに賛成でした。島民は昔からここに住み、自然に寄り添った生き方をしていることもあり、ジュゴン保護は広く生態系を守れるという意識がありました。

3島目では、区長さんに話を聞きました。時々、ジュゴンの目撃情報があるそうです。この島も生態系を守る上で、クリティカルハビタットはいいことだという認識がありました。ただ、不利益を被る人や補償などが生じ、島民同士の衝突が生まれる可能性もあると危惧していました。

特に目撃情報が少ない島ではジュゴンに対する関心が低いように感じられました。見たこともない動物を、なかなか積極的に守ろうという気になれない気持ちはよく分かります。沖縄でも、ジュゴンについてもっと身近に感じる機会を増やすことができたらいいなと思いました。

次号では保護区に関する市とNGOと国の3者協定のお話を書きます。(関西 正阿彌(しょうあみ)崇子)



3島目のマハバ島 区長さんへのインタビュー

じゅごんの里ツアー報告&意見交流会 in 大阪

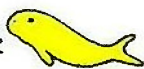
日時：7月16日(土) 18:30～20:30

場所：大阪市中央公会堂・第4会議室

地下鉄御堂筋線/京阪電鉄「淀屋橋」駅下車

資料代：300円

お待ち
しています



大阪

第41回平和と民主主義をめざす全国交歓会東京大会

日程：7/30(土)～31(日)

場所：東京都大田区民センター

*SDCCはブース出展(両日)、分科会を主催します
分科会日時：31(日) 9:30～12:00

第16回エコメッセ2011 in ちば

9月4日(日) 10時～17時

会場：幕張メッセ国際会議場

*ブース出展します

東京

Editor's Note

ツアー報告を、しっかりお届けしたいとがんばってニュースを作りました。雨中の山歩きも印象的だったし、名護市との連携が深まった良いツアーでした。来年は、ぜひぜひ皆さまご参加ください。(Y)

署名

震災・政府情勢により、署名提出、政府交渉を再度延期することになりました。第3次集約は10月末日に再変更いたします。皆さまのご協力よろしくお願いたします。

ジュゴンちゃんぶるニュース VOL.57 2011年7月12日発行

ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)

Tel/Fax 03-5228-1377 〒162-0815 東京都新宿区土土八幡町2-21

第1千代田ビル301号室 なかま共同事務所内

○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp

(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302

TEL/FAX 06-6353-0514

